事務事業評価シート（評価実施年度：平成２７年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ－１－２　発達段階に応じた教育の振興

１.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	教育指導課子ども安全支援室長　吉崎　朗	電話番号	0852-22-5444

事務事業の名称		「こころ・発達」教育相談事業
目的	（１）対象	児童生徒及び保護者
	（２）意図	児童生徒及び保護者が､臨床心理の専門家への教育相談を通して心の負担を軽減し問題の解決をめざす。
事業概要		「こころ･発達教育相談室」に臨床心理士2名、教職経験者1名を配置し、来所相談や電話相談を行い、医療が必要と考えられる児童生徒を医療機関に紹介する。

２.成果参考指標

			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
(1) 成果参考指標	指標名	相談延べ人数	目標値		－	－	－	250.00	人
	式・定義	発達・学業相談及び性格・行動相談を受けた延べ人数	実績値	216.00	206.00	169.00	294.00		人
			達成率		－	－	－		%
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率						%

３.事業費

	２６年度実績	２７年度計画
事　業　費（b）（千円）	6,879	7,315
うち一般財源（千円）	6,879	7,315

４.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤H２７新規

５.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・小学生の相談件数は減少傾向にあったが、平成26年度は前年度の3倍以上に増加した。
　平成25年度：25件 → 平成26年度：84件
・中学生、高校生の相談が中心（中学生100件、高校生110件）となっているが、小学生からの相談も同様な対応が求められている。
・既に医療機関に通院中で、セカンドオピニオン目的や「こころの医療センター」受診・入院目的で相談にくるケースもあった。

６.成果があったこと（改善されたこと）

・医療機関受診を勧められたり、その必要性を漠然と感じているものの、なかなか踏み切れない保護者や児童生徒に対して、医療受診への不安や抵抗を語れる相談機関として機能できた。

７.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・学校や関係機関から強く勧められて相談に訪れた保護者や児童生徒からの情報のみでは問題の本質が見えにくい状況がある。

②困っている状況が発生している「原因」

・相談に訪れる保護者や児童生徒の問題意識の乏しさ

③原因を解消するための「課題」

・在籍校、関係機関との連携

８．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・来談者に来所経緯の確認、必要に応じて紹介元である学校や関係機関との情報交換などの連携を積極的に行っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

９．追加評価（任意記載）